

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	議会運営委員会
参 加 者	委員 長 内田 実 副委員長 三宅 健司 委 員 木全 昭子 小田 高之 井町 圭孝 井手瀬 絹子 加藤 学 築瀬 太 山崎 憲伸 議 長 加藤 義幸 副 議 長 畔柳 敏彦
視 察 日 時	平成30年5月14日(月) 14:00～16:15
視 察 先 ・ 概 要	東京都東村山市 人口：151,096人 世帯数：72,611世帯 面積：17.14 k m ² 特記事項：住みよさランキング2016(東洋経済)総合511位 (安心466位、利便296位、快適308位、富裕220位、住居728位)
視 察 項 目	「議会改革の取り組み」について
視 察 概 要	1 議会報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 議会基本条例(平成26.4施行)第5条に規定 ・ 各定例会終了後の年4回(各回2日)開催 (基本的に金曜夜と土曜昼、会場を変えて行う) ・ 広報広聴委員会(8名)が所管し、企画から運営まで行うが、基本的に全議員で行う(2名不参加) ・ 参加人数は、徐々に減ってきている ・ 当初は対面方式で行っていたが、声の大きい人に占拠されてしまい、市民が意見を言いにくいため、2年目以降はグループディスカッション方式を取り入れた。そのことで、市民との意見交換が活発になった ・ 報告会前半は定例会の報告、後半は意見交換会を行うが、議会としての報告なので、個人の意見や会派の主張は出さないという取り決めの下で行っていたが、4年目には予算と決算の審議について討論で発言した内容という縛りをかけて、会派の意見を言う時間を設けている ・ 地域にある4つの公民館でも実施している(今年は夏に実施) ・ 防災、減災など、テーマを設けた報告会も行っている ・ 報告会の際は手話で自己紹介を行っている ・ ポスターは2種類議員が手作りで作成し、施設の雰囲気に合わせて掲示している ・ 広報は超党派で、駅前等で実施している

	<p>2 政策研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ「いじめで泣く子を出さないために」 ・ 議会基本条例第13条に規定（政策提案等） ・ 具体的に実現していくため、政策研究会の設置についての取り決めを決定。次の要件をすべて満たした場合に設置できる 複数人会派かつ議員数の5分の1以上の参加 研究内容が東村山市政に関すること 企画書を議長に提出し、議長の設置許可を得ること ・ 会議は原則公開で、予算措置はなし ・ 平成28年1月から議員有志で準備会合を重ね、28年10月に7会派11名で政策研究会を立ち上げる ・ 月1回ペースで学習、意見交換、外部研修への参加等を実施 ・ 人数が多いため、合意形成、日程調整が大変 <p>3 その他特徴的な取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS（ツイッター）による情報発信...会議の進捗情報や視察対応などの情報を議会事務局が発信 ・ 議会開会のお知らせのポスターを作って市内に掲示 ・ 傍聴ルールの見直し...帽子等にする規定の削除や受付時の記名等の廃止、電子機器類の使用を可、資料の貸し出し ・ 議員研修会...先進市の議員や法政大の廣瀬教授などを招いて実施、姉妹都市の柏崎市との合同研修会の実施 ・ 議会基本条例を2年に1度検証 ・ 議会の災害対応...マニュアルを去年11月に策定
<p>所 感</p> <p>視察しての感想や岡崎市への提言など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議会報告会を計画する際には、誰のために何のためにやるのかを明確にしておくことが大切である。決して地域の陳情をする場にはならない。また、報告会を一方通行で進めることはせず、お互いの立場を尊重する配慮が必要である。計画・運営・見直しすべて議員が行う。 ・ 平成25年に制定された議会基本条例には、議会を「言論の府」と位置付けられ、市民全体の福祉向上をめざし、信頼される議会であり続けるためにとあり、条例の項目ごとにわかりやすい解説が書かれていた。1人会派を認め、議会だよりでは議決結果を議員名で全員賛否を表示、一般質問は、毎議会全議員（議長、副議長除く）が行い、毎議会後全議員で議会報告会を行っている。自転車操業と言われたが、各議員が議会を自分の言葉で語ることが行われている議会であった。本市議会も今一度議会基本条例の見直しの必要性を感じた。 ・ 議会改革について、議員の方々に説明してもらえたことに何より驚いた。議会報告会などをと通し、困難にぶつかることが議員個人のレベルアップにつながることを実感した。Actionにつなげることがまず大切だと考える。 ・ 議会報告会を年4回も実施しており、議員のエネルギー、特に広報広聴委員の方々のエネルギーに敬意を表したい。議会報告会を実施する際

はグループでの意見交換がポイントになることを学んだ。本市も実施する際は参考にすべきだと思う。

・議会報告会を平成26年より毎年定例会ごとに年4回、しかも2日間実施されてきた努力に敬意を表する。全て議員で行うことを前提に、自転車操業とはいえ、説明をされた委員長、副委員長の話から「継続は力なり」を実感した。回数を重ねる中で、形式として「対面」「グループ」「車座」を試行錯誤された結果、グループ形式が距離の近い分素朴な疑問も出しやすく好評とのこと、本市の意見交換会の形式の参考となった。

・議会報告会は、多くの市議会において議会基本条例の制定とともに開催されているが、陳情型、苦情型など問題点も挙げられ、本市議会においても議論が分かれるところであった。しかし、意見交換会の意義は十分に感じられることから、今回の視察においてのテーマや相手方の絞り込み、あるいは多様な会議形式など今後の本市の意見交換会の参考としたいものである。

・議会報告会について、市域が17平方キロと本市の20分の1ほどと狭いため（13町内会）2会場でも十分とのことであった。但し、3ヶ月に1回の開催はなかなか大変で、「自転車操業」という言葉が印象的であった。議長の諮問機関である広報広聴委員会が主催している。当初は声の大きい人に占拠されてしまうようなことが多かったので、現在はグループディスカッションやワークショップ形式を中心に開催している。議会報告会は徐々に参加市民が減少気味であるが、参加者は聞きたい人よりしゃべりたい人が多いので、グループに分かれて皆にしゃべってもらえると満足度が上がる。まさに経験から出た言葉と感じた。議会報告部分にどうしても時間がかかるのが課題であり、議会報告会の名称より意見交換会などのほうがよいとのことであった。伊藤議長の「議会報告会で全てを語れるわけではなく、議会のショーウィンドとして、これを見て議会に興味を持ってもらえればよい」や佐藤議員の「議会のコンテンツはそんなに興味をそそるようなものではないが、市民は盛り上がりを期待している。そのズレは感じている」などの言葉は、議会報告会の今後の課題として、また過度な期待に対する本音として受け止めた。

政策研究会についてであるが、7会派11名での研究会のため合意形成が困難な他、日程調整だけでも大変。半分程度の人数が望ましいとのこと。また、任意機関であるので、合意を形成できたとしても議会の提言とできるかは課題であるとのことであった。同様な協議機関は本市議会でも必要に応じて設置されているので、これらの課題についてはよく理解できる場所である。

その他にも開かれた議会に向けての取り組みが説明されたが、それらに直接取り組んでいる議員の皆さんから生の言葉で説明してもらえて、大変参考になった。

・対面式の議会報告会より、座談会式の意見交換会のほうがより効果的

	<p>であると感じた。その際、テーマを絞ってそのテーマに関する団体や組織と意見交換会を行うならば、より深い議論ができるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東村山市は議会報告会を年4回開催しているが、告知ポスター制作等いずれも議員の手作りで行っているところがすばらしい。SNSも積極的に活用しており、この発信力は見習うべきである。 ・東村山市は議会基本条例第5条に明記した議会報告会を年4回、各回2日間市内会場で開催し、活発な活動をされている。全ての運営は全議員で実施している。運営の中心は広報広聴委員会が担っている。本市は若者世代を対象に意見交換を主目的とした「さらに開かれた議会」への一歩を踏み出そうと作業部会で実施に向けた議論をし、検討段階に入っているが、継続的に実施していくためにはプロジェクトチームを編成し、推進していくことが重要と確信を持った。また、開催のやり方も講義型でなく、グループ分けディスカッション方式のほうが参加された方も気楽に発言ができるし、忌憚のない意見が出せるなど、東村山市議会の実践の中での有意義なヒントを得られた。
<p>委員長の総括</p>	<p>東村山市の議会改革の取り組みについて、視察概要に記載のとおり調査を行った。</p> <p>議会改革に中心的な役割を担ってこられた議長ほか、3名の議員から直接説明してもらい、本音の声を聴くことができ、理解を深められたことに感謝する。</p> <p>本市においても、議会報告会、政策研究会、ICTを活用した議会改革について検討を重ねているところであり、有意義な調査ができた。</p> <p>社会情勢の変化に伴い、市民の要望も多様化することから、議会改革は永遠のテーマであるとの観点を持ち、本市の実情に鑑み、先進的な参考事例に学び、スピード感を持って改善に取り組んでいく。</p>